



OMRON

第28回日本老年学会総会／第55回日本老年医学会学術集会

ランチオンセミナー19

日時

6月5日(水) 12:00～13:00

会場

リーガロイヤルNCB 淀(2F)

〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-27(中之島センタービル内)

座長

土居 義典 先生 (社会医療法人 近森病院 理事)

演者
1

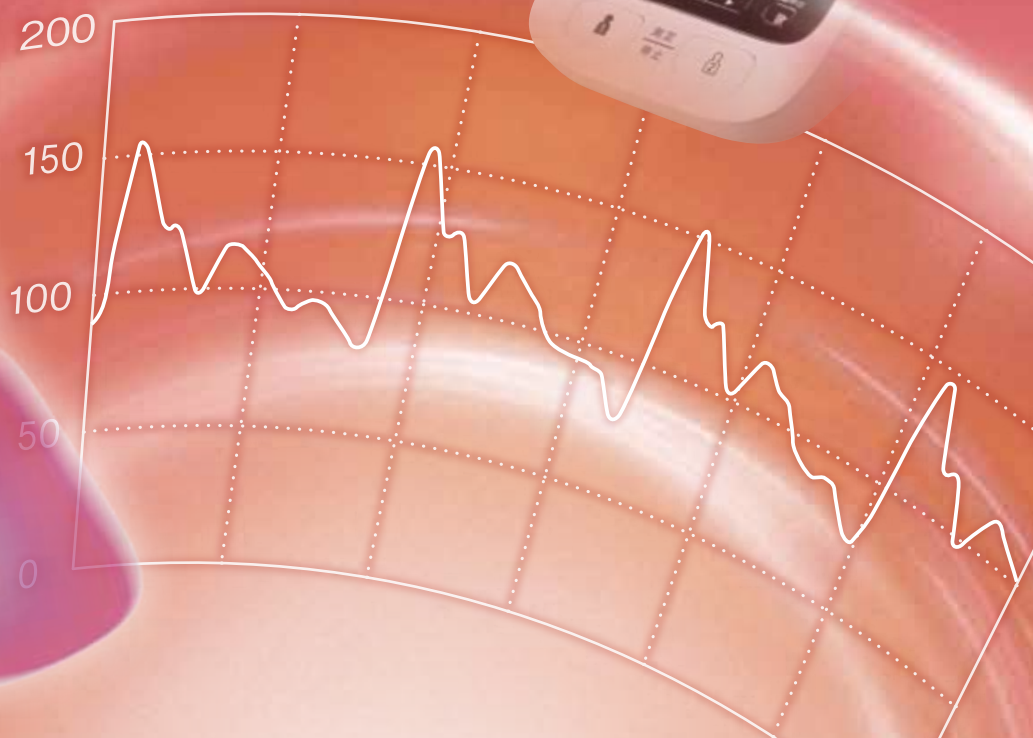
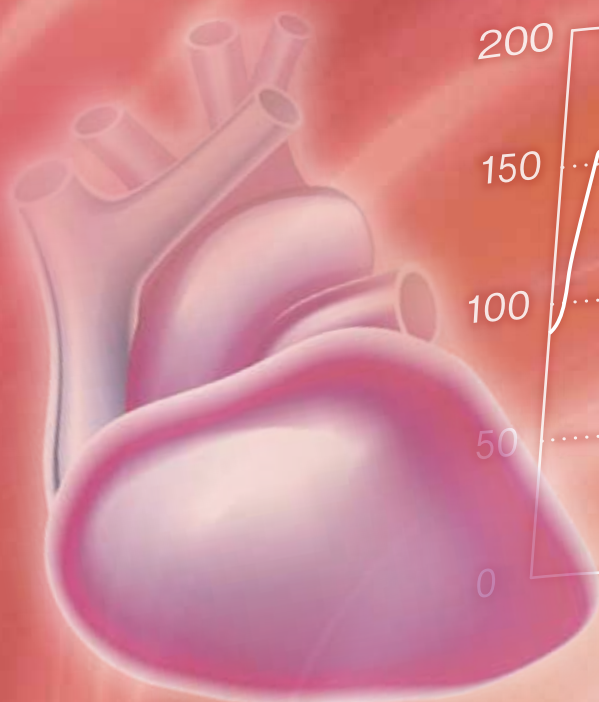
家庭血圧測定の臨床的意義

今井 潤 先生 (東北大学大学院
医薬開発構想講座 教授)

演者
2

中心血圧による高血圧診断の有用性

小原 克彦 先生 (愛媛大学大学院
加齢制御内科 特任教授)



共催

第28回日本老年学会総会／第55回日本老年医学会学術集会
オムロンヘルスケア株式会社・オムロンコーリン株式会社

家庭血圧測定 of 臨床的意義

東北大学大学院 医薬開発構想講座

今井 潤

家庭血圧 (HBP) 測定 (M) は高血圧診療における、標準的な方法である。HBP は従来の診察室血圧より情報量が多く、正確で安定した情報である。また、時間と関連した血圧情報が得られる。高血圧診療のゴールドスタンダードであった診察室血圧は、家庭血圧にとって代わられるだろう。世界の多くのガイドラインは、HBP の臨床的意義を高く評価し、日常診療の方法としてこれを用いることを奨めている。

HBP に関する情報の蓄積は著しい。そこで、日本高血圧学会 (HBP) は 2011 年に「家庭血圧測定 of 指針」改訂第 2 版を上梓した。また 2014 年には JSH の新しいガイドラインが上梓される。ここでは本邦の HOMED-BP 研究を基に、HBP の降圧目標レベルを設定している。そこで HBP に関するエビデンスの蓄積と我々が過去 26 年行ってきた大迫研究、HOMED-BP 研究の成績に触れて、家庭血圧 of 臨床的意義を述べる。

中心血圧による高血圧診断 of 有用性

愛媛大学大学院 加齢制御内科

小原 克彦

上腕を始めとした末梢血管における血圧と、大動脈や頸動脈などの中心血圧とは異なる。中心血圧は、末梢血圧よりも臓器の還流圧に近く、多くの断面研究において、脳、心、腎、血管の高血圧性臓器障害との関係は、上腕血圧に比し、中心血圧の方が強いことが報告されている。また、腎障害患者や虚血性心疾患患者では、中心血圧が心血管イベントリスクとなることが示されている。さらに、一般住民を対象とした疫学調査でも、中心血圧は上腕血圧以上に心血管事故と密接に関連しており、特に高リスク of 患者のリスク評価に有用であると考えられる。降圧薬 of 中心血圧に対する効果は、ASCOT-CAFE 試験以降も多くの報告があり、高血圧診療に対する中心血圧 of 有用性が明らかになっている。中心血圧 of 日常臨床への応用には基準値 of 設定が必要であるが、2013 ヨーロッパ高血圧ガイドラインに中心血圧 of 基準値が報告される予定である。